

カラビナの認定基準及び基準確認方法

通商産業大臣承認 58 産第 2904 号・昭和 58 年 11 月 21 日

製 品 安 全 協 会

山岳用品（カラビナ，マウエルハーケン，シュタイクアイゼン，登山用ベルト，
アイスピッケル及びアイスハンマ）専門部会専門委員名簿

	氏 名	所 属
（部会長）	矢 野 正	東京都立工業高等専門学校
	幾 原 敏 行	通商産業省生活産業局繊維検査管理官
	池 田 理 平	通商産業省産業政策局消費経済課消費者用製品指導室
	岩 片 武 史	通商産業省横浜繊維製品検査所
	遠 藤 二 郎	リーベルマンウエルジュリーアンドコンパニーエスエイ
	梶 田 民 雄	梶田製作所
	金 坂 一 郎	社団法人日本山岳会
	川 又 輝 長	社団法人日本スポーツ用品工業協会
	川 村 晴 一	社団法人日本山岳協会
	栗 本 忠	全日本運動用具小売商組合連合会
	西 村 惟 之	東京都立工業高等専門学校
	根 本 啓 治	製品科学研究所
	平 田 利 英	東京農工大学
	松 岡 寿 人	財団法人日本文化用品安全試験所
	三 島 克 己	通商産業省工業品検査所商品テスト部安全監督課
	安 田 裕	株式会社エバニュー
	山 浦 絃 一	通商産業省生活産業局文化用品課
	吉 枝 正 明	工業技術院標準部繊維化学規格課
	吉 田 潤	ダイワスポーツ株式会社
	小牟田 陽 一	製品安全協会
（事務局）	製 品 安 全 協 会	〒106 東京都港区六本木3丁目17番7号 電話 （03）582-6231～5

カラビナの認定基準及び基準確認方法

1. 基準の目的

この基準は、カラビナの安全性品質及び使用者が誤った使用をしないための必要事項を定め、一般消費者の生命又は身体に対する被害の発生を防止をはかることを目的とする。

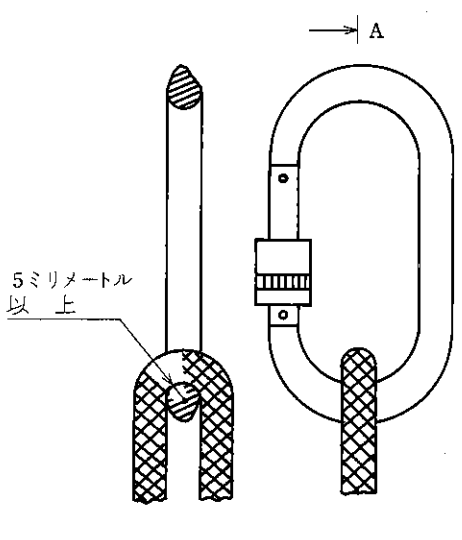
2. 適用範囲

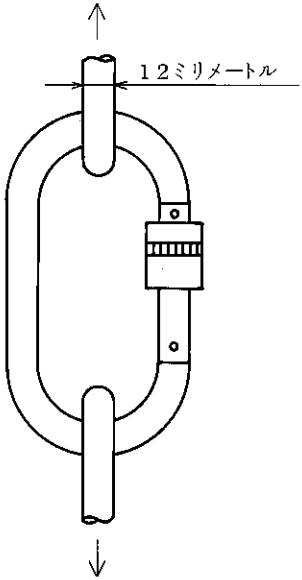
この基準は、登山に使用するカラビナについて適用する。

3. 安全性品質

カラビナの安全性品質は、次のとおりとする。

項 目	認 定 基 準	基 準 確 認 方 法
1. 外観、構造及び寸法	1. カラビナの外観、構造及び寸法は、次のとおりとする。 (1) 手指、登山用ロープ、登山用ベルト、シュリング、アブミ等を傷付けるおそれのあるばり、まくれ等がないこと。 (2) 各部の組付けは確実で、き裂、破損、使用上支障のある緩み、がた、変形等の異状がないこと。 (3) 開閉かんは円滑に作動し、開閉かんとキャッチは確実に結合すること。また、環付きのものにあっては、環は円滑に作動すること。 (4) 開閉かんの作動を阻害することなく、2本の登山用ロープの取付け及び取外しが容易にできる構造であること。	1.(1) 目視、触感等により確認すること。 (2) 目視、触感及び操作により確認すること。 (3) 操作により確認すること。 (4) 通商産業省関係特定製品の安全基準等に関する省令（昭和49年通商産業省令第18号）別表第1に規定する登山用ロープであって、呼び径12ミリメートルの編みのもの（以下「ロープ」という。）を用いて、操作により

項 目	認 定 基 準	基 準 確 認 方 法
	(5) 使用状態で、荷重が加わっているロープと接触する箇所は、断面の曲率半径が5ミリメートル以上の凸曲線から構成されていること。	確認すること。 (5) 図1に示すように、ロープを取り付けて、接触する箇所について、スケール等により測定して確認すること。 図 1  A-A断面 → A
2. 強 度	2. カラビナの強度は次のとおりとする。 (1) 1,400キログラムの力で縦方向に引っ張ったとき、き裂、破損、使用上支障のある永久変形等がなく、かつ、最大引張荷重は、2,000キログラム以上であること。 (2) すでにカラビナに耐荷重値が表示されているものにあつては、最大引張荷重は、表示耐荷重値以上であること。	2. 図2に示すように、開閉かんを確実に閉じ（環付きのものは、環を確実に作用させる）、直径12ミリメートルの丸棒を介して、1,400キログラムの力で縦方向に引っ張り、10秒間保持した後、異状がないことを目視及び触感により確認し、最大引張荷重については、引き続きカラビナを引っ張って確認すること。

項 目	認 定 基 準	基 準 確 認 方 法
3. 材 料	3. 耐食性材料以外の金属材料を使用した部分は、防せい処理が施されていること。	図 2  12ミリメートル 3. 目視及び触感により確認すること。

4. 表示及び取扱説明書

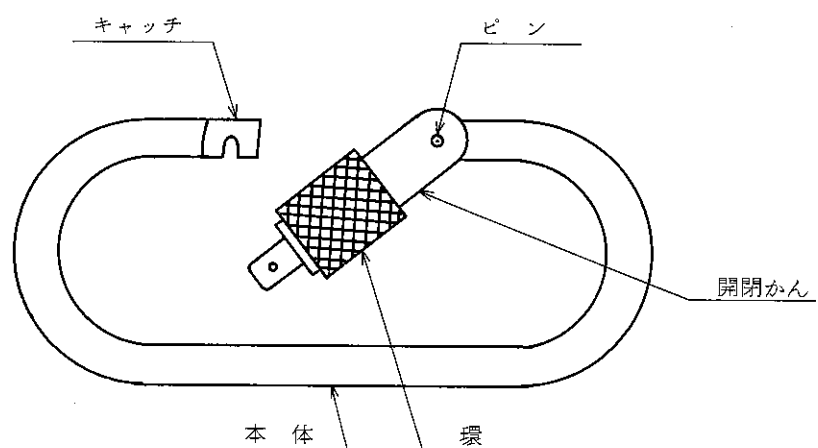
カラビナの表示及び取扱説明書は、次のとおりとする。

項 目	認 定 基 準	基 準 確 認 方 法
1. 表 示	1. カラビナ本体には、容易に消えない方法で、次の事項を表示すること。 (1) 申請者（製造業者、輸入業者等）の名称又はその略号。 (2) 製造年若しくは輸入年又はその略号。 (3) 耐荷重値を表示する場合には、2,000 キログラム以上の耐荷重値を表示すること。	1. 目視及び触感により確認すること。
2. 取 扱 説 明 書	2. 製品には次に示す趣旨の取扱上の注意事項を明示した取扱説明書を添付すること。ただし、その製品に該当しない注意事項については明示しなくてもよい。 なお、一般消費者が容易に理解できるよう図で明示するのが望ましい。 (1) 取扱説明書を必ず読み、読んだあと保管すること。 (2) 形 式 (3) 使用上の注意 (a) 横方向の荷重に対しては、弱いので、横方向に荷重が加わるような使い方は、しないこと。 (b) 使用後、損傷の有無を確認すること。 なお、一度でも大き	2. 専門用語等が使用されず、一般消費者が容易に理解できるものであることを確認すること。

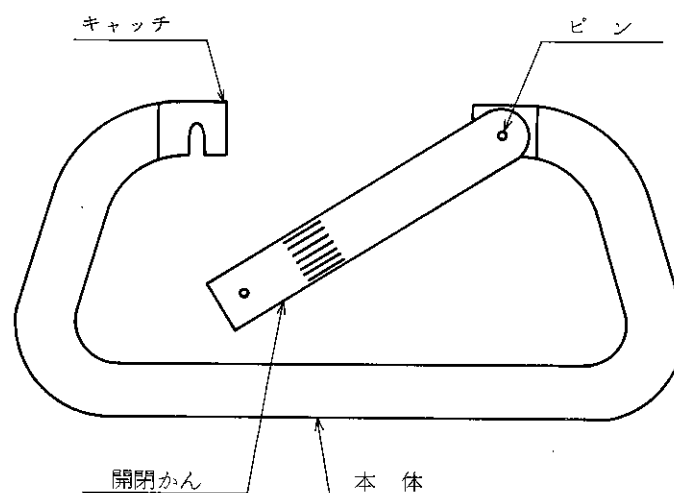
項 目	認 定 基 準	基 準 確 認 方 法
	な衝撃を受けたものは、強度や剛性が低下しているおそれがあるので、外観に損傷がなくても使用しないこと。 (c) 開閉かんが開くおそれがあると思われる場合には、環付きのものを使用することが望ましい。 (d) 環付きのものは、環が確実に作用していることを確認した上で使用すること。 (4) SGマークの補償制度の対象となるのは登山（登山練習及び山岳救助活動を含む。）に使用されている場合に限り、レンジャー部隊の訓練、風水害の救助活動など特殊な使い方をしている場合は、対象外となること。 また、改造した場合には、対象外となることがあること。 (5) 製造業者、輸入業者又は販売業者の名称及び住所。	

各部の名称（参考付図）

1. O 形 例



2. D 形 例



3. 三 角 形 例

